

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2025年11月14日）

■第2版 第1刷（2024年11月15日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第2章					
32	右段下から5行目～	二重結合の位置の異なる、n-9, n-6, n-3系がある。リノール酸、アラキドン酸（以上n-6系脂肪酸）、 α -リノレン酸、エイコサペンタエン酸（EPA）、ドコサヘキサエン酸（以上n-3系脂肪酸）はプロスタグランジンなどのエイコサノイドの前駆体であり、ヒト体内で合成できず、 必須脂肪酸 とよばれている。	メチル基側から数えて最初の二重結合の位置の異なる、n-9, n-6, n-3系がある。n-6系のリノール酸（18:2）とn-3系の α -リノレン酸（18:3）はヒト体内で合成できないので、 必須脂肪酸 と呼ばれている。これらはさらに炭素鎖の伸長反応や不飽和化反応などにより、プロスタグランジンなどのエイコサノイドの原料であるジホモ- γ -リノレン酸（20:3）、アラキドン酸（20:4）、エイコサペンタエン酸（20:5）になる。	「リノール酸」と「 α -リノレン酸」は必須脂肪酸、「エイコサペンタエン酸（EPA）」、「ドコサヘキサエン酸」は α -リノレン酸から合成できるが合成量が十分ではないため、必須脂肪酸に準じて摂取が推奨されていたり、これも含めて必須脂肪酸ということもあるため、それがわかる記載といたしました。	25/05/16
63	右段1行目	図5に示すように、多くの真核生物のmRNAは、3'末端にアデノシンが連続で数十～200塩基並んだポリA尾部（poly A tail）をもっている。	図5に示すように、多くの真核生物のmRNAは、3'末端にアデニル酸が連続で数十～200塩基並んだポリA尾部（poly A tail）をもっている。	「アデノシン」→「アデニル酸」	25/05/16
第3章					
42	左段1行目	ヒトの核内には 第1から第22まで の番号が付けられた～	ヒトの核内には 1番から22番まで の番号が付けられた～	一般的な表現に変更	25/05/16
第4章					
58	右段7～12行目	機能タンパク質には酵素やそれらの活性を調節するタンパク質に加え、物質を運搬するタンパク質などがある。酵素（enzyme）とは生体で起こる化学反応を触媒するタンパク質のことであり、その例としてはRNAを合成するRNAポリメラーゼやタンパク質を合成するペプチジルトランスフェラーゼ（いずれも後述）がある。	機能タンパク質には酵素やそれらの活性を調節するタンパク質に加え、物質を運搬するタンパク質などがある。酵素（enzyme）とは生体で起こる化学反応を触媒するタンパク質のことである。	ペプチジルトランスフェラーゼは酵素の例として適当ではないため、その箇所を削除	25/05/16
第10章					
157	図6			※1に差替	25/05/23
第12章					
185	右段 4)DNAマイクロアレイ法 の次の行	塩基配列の明らかな一本鎖DNAを 基盤 の上に～	塩基配列の明らかな一本鎖DNAを 基板 の上に～	「基盤」→「基板」の誤りでした	25/11/14
188	図20			※2参照	25/11/14

図表

※1 「SREBP-1」で調節されるところをベージュ(枠線なし)、「SREBP-2」で調節されるところを白で紺の枠線あり、両方で調節されるMTPをうすいベージュで紺色の枠線あり、という形に修正しました。

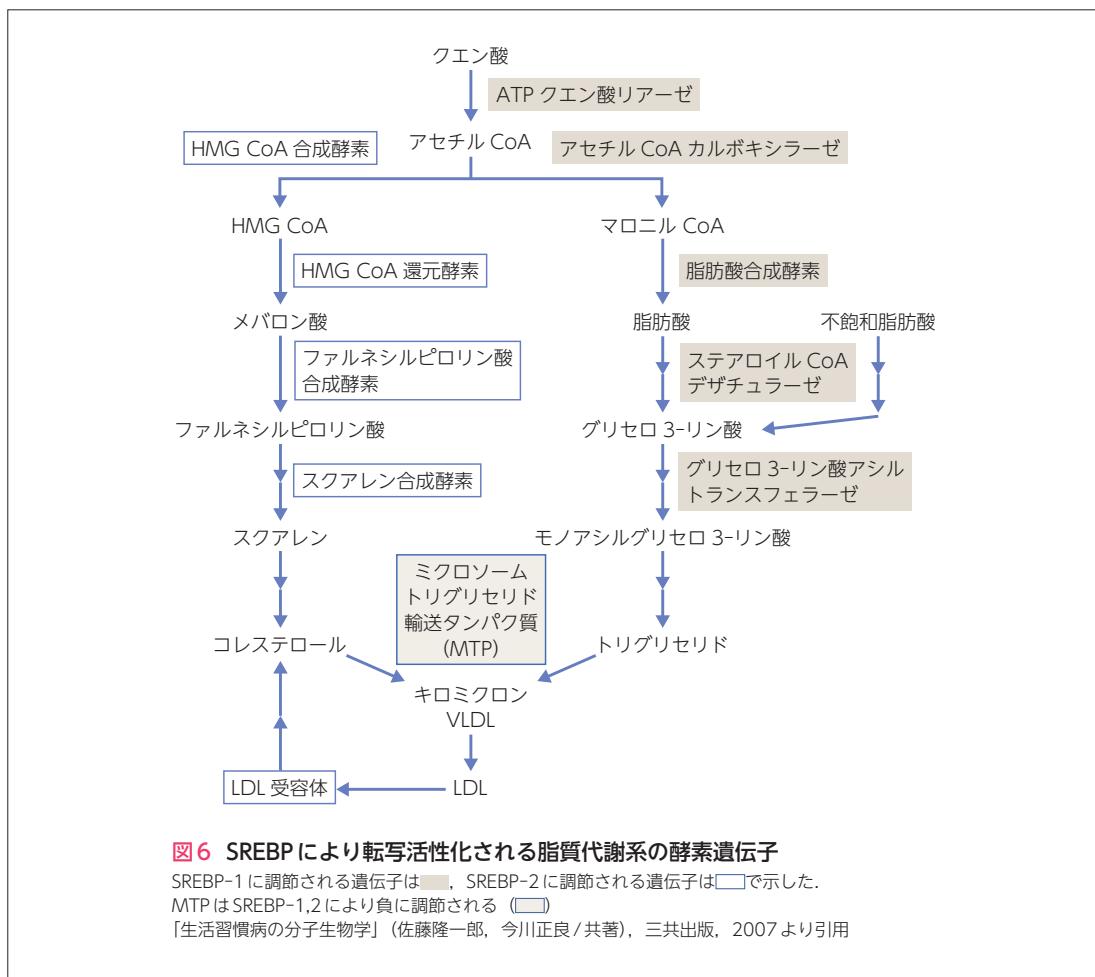
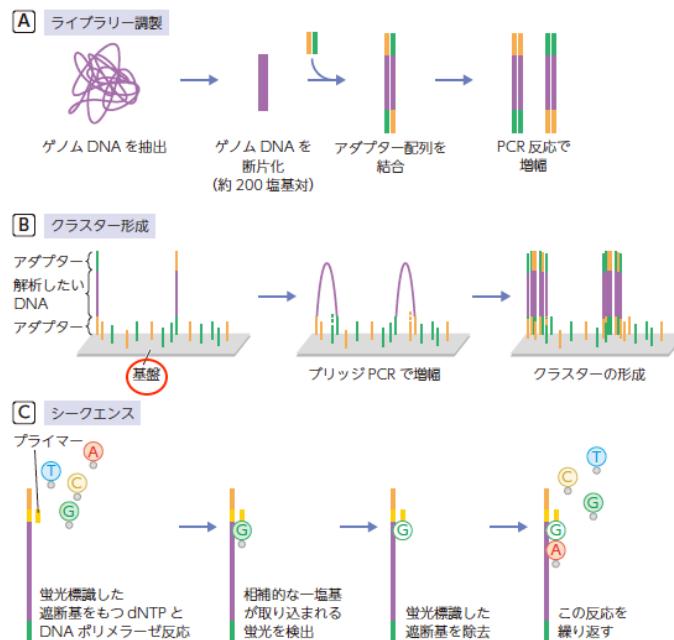


図6 SREBPにより転写活性化される脂質代謝系の酵素遺伝子

SREBP-1に調節される遺伝子は ■、SREBP-2に調節される遺伝子は □ で示した。

MTPはSREBP-1,2により負に調節される (■)

「生活習慣病の分子生物学」(佐藤隆一郎, 今川正良/共著), 三共出版, 2007より引用



「基盤」→
「基板」の誤りで
25/11/14
した

